

## 第三回京都府設計津波水位検討委員会の開催結果概要について

- 1 開催日時 平成29年2月24日（金）午後2時00分～午後4時30分
- 2 場 所 京都ガーデンパレス 2階 葵
- 3 出席委員 井合委員長、間瀬委員長代行、澤田委員、鈴木委員
- 4 オブザーバー 舞鶴市、宮津市、伊根町、与謝野町
- 5 結果概要

### (1) 第二回委員会開催結果概要について

- ・ 第二回委員会での決定事項について確認を行った。
- ・ 第二回委員会で指示された過去津波（日本海中部地震、北海道南西沖地震）の再現シミュレーション結果に痕跡高および検潮記録等を用いた検証結果を追加報告し、了承された。

### (2) 津波の増幅箇所について

- ・ 京都府沿岸に来襲する可能性のある津波の特徴を把握するため、京都府の L1 津波対象津波群と L2 津波、国の定めた 60 想定断層について、断層ごとに算出した府沿岸の平均津波高さからの増幅率を用いて津波の局所的な増幅箇所を報告し、了承された。

### (3) 設計津波水位（案）について

- ・ 日本海中部地震と北海道南西沖地震の津波をもとに設計津波水位を設定することとし、津波の局所的な増幅は、整備時の余裕高の範囲により対応することで了承された。

#### 【津波の局所的な増幅への対応】

1 断層 1 シミュレーションでは、津波の局所的な増幅による「ばらつき」を評価できないため、地震の分野でよく使われる手法を用いて、「ばらつき」を簡便に検討することとする。

具体的には、日本海中部地震の平均水位に、対象となる波源群の増幅率の平均値<sup>\*</sup>を掛けることによって、日本海中部地震の波源モデルをベースに「ばらつき」を考慮した津波高を設定する。

ただし、津波の分野では、このような手法の適用性について、十分な知見がないため、増幅率を考慮した津波高は、整備時の余裕高の範囲でカバーできるよう検討を行うこととする。

※増幅率の平均値については、平均値よりも適当な統計値を検討のうえ、その統計値を採用する。

- ・ 設計津波水位の設定範囲は、津波の増幅の状況を踏まえて一連の区間で設定すべきとの意見が付された。

#### 【設計津波水位の設定範囲】

事務局案の設定範囲は、シミュレーションの水位に合わせて細かく設定しているが、シミュレーションの水位に多少差があっても、増幅率の地域的な傾向を見ながら、一連の区間を同じ高さで設定すべきである。

### (4) 今後の取り組みについて

- ・ 海岸における津波対策の今後の取り組み方針について報告し、了承された。なお、津波の局所的な増幅に対する余裕高の取り扱いを取り組み方針に記載する。
- ・ 今後は、この委員会でカバーしきれなかったところや不確実性については、その後の最新の知見を随時入れ見直していくこととする。

以上